

# いかのおすし

## 「いかのおすし」とは

「いかのおすし」とは、子どもが知らない人に声をかけられたときに、被害にあわないようにするための行動を示した、警視庁の考案による防犯標語である。インパクトがあり、子どもも覚えやすい。

- 「いか」=いかない(知らない人について行かない)
- 「の」=のらない(知らない人の車に乗らない)
- 「お」=おおごえをあげる(「助けて!」と大声をあげる)
- 「す」=すぐに逃げる
- 「し」=しらせる(周囲の大人に知らせる)

事故・事件から子どもを守るためには、学校関係者や保護者、地域の協力は不可欠である。その上で、子ども自ら「自分の身は自分で守る」ことを意識させ、身につけさせることも必要である。この点からも、「いかのおすし」を行動に移すことができるように指導する。

なお、「いかない」には、危ないところへは行かない、「のらない」には、知らない人の誘いにのらないという内容も含まれる。また、「しらせる」には、どんな人、どっちに逃げた、どんな車かなども大切な要件となる。

## 不審者による声かけの例と指導例

**「いかない」**…公園で遊んでいると、知らない人が話しかけてきた。

お菓子を買ってあげるよ。  
新しいゲームがあるから、一緒に遊ぼう。  
あっちの公園のほうが楽しいから行こうよ。

- ・「どこかに行こう」と言われても、絶対に行ってはダメ。
- ・知っている人でも「家の人に聞いてから」と言う。
- ・何回も誘われたら、すぐその人から離れる。
- ・追いかけて来たら、近くの家やお店に逃げる。

**「のらない」**…学校の帰り道、車に乗った知らない人が話しかけてきた。

お母さんが怪我をして病院に入院したから迎えに来たよ。  
駅に行く道が分からないから、車に乗って教えてくれるかな。  
雨が降っているから、家まで送ってあげるよ。

- ・知らない人の車には絶対乗らない。
- ・車に近づくのも危ない。
- ・道を聞かれたら、近くの人に頼む。
- ・追いかけてきたら、近くのお店や家に急いで逃げる。

## 「大声を出す」「すぐににげる」「知らせる」

- …知らない人に連れて行かれそうになった。
- ・体をつかまれたりしたら、大きな声で「助けて」と言う。
- ・防犯ブザーも鳴らす。
- ・危ないときは、すぐに近くのお店や家、交番などに逃げる。
- ・家に帰ったら、お父さんやお母さんに知らせる。

## その他の指導例

- ・登下校はみんなです。1人になったときは、人がたくさんいる道を歩く。
- ・公園や広場では、1人で遊ばないようにする。
- ・人がいないところには絶対に行かない。
- ・遊びに行くときは、家の人に、だれとどこで遊ぶのか、何時に帰るのかを言う。

(神奈川県横須賀市役所ホームページより)

## 「いかのおすし」テーマソング

「いかのおすし」を覚えてもらうために、子どもたちのために曲をつくり、いろんな施設で活躍中のkirakiraが歌にした。歌や踊りで子どもたちが楽しく身につけられるようにと、各地での取り組みが広がってきている。次のアドレスにアクセスすると、「いかのおすし」の歌、振り付け、話、紙芝居を視聴することができる。

<http://kirakiland.web.infoseek.co.jp/page005.html>